

## 平成26年度の運営総括及び来期の課題

味方児童館

### 1. 乳幼児事業

#### (1) 総括

##### ①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に『ちびっこ広場』を行っています。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等です。『ちびっこ広場』に参加することを楽しみに来館する親子が多く、みんなで歌ったり体操したりする楽しさを共有しています。今年度は新たに、「月の歌」として1か月ごとに童謡を決め、館内にBGMとして流し、毎週の『ちびっこ広場』で親子で歌ってきました。音楽を豊富に取り入れたリトミックを中心とした『ちびっこ広場』を意識し、展開してきました。その結果、幼児が音楽が聴こえるとリズムに合わせて踊ったり、遊びに来る際に「月の歌」を親子で歌ったりする様子が度々見られるようになりました。

昨年まで頻繁に遊びに来ていた幼児の半数が保育園や幼稚園に入園し、今年度も新しい顔ぶれでイベントを行ってきました。味方地域の方だけでなく月潟地域・根岸地域・白根地域、区外・市外・県外からの来館も増え、利用者からの紹介や検診、育児相談で児童館を知り来館される方が多く、味方児童館が周知されてきていると感じました。今年度は特に乳児の来館が多かったです。

今年度も味方地区の親子サークル『りとるくらぶ』と共催で『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』などの季節行事を行うことができました。『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』は昼食が食べられるということもあり、とても人気のあるイベントです。食事の提供は、地域の食生活改善推進委員がボランティアで参加してくださっています。食物アレルギーのお子さんの除去食や、月齢の低いお子さんの離乳食など細やかな配慮をしていただき、安心して楽しく食事をしています。祖父母が孫を連れて来館することも多く、祖母同士、祖母と母親などの異世代の交流も見られるようになりました。こうして地域で子育てするという環境ができ上がってきています。今後も利用者のニーズをしっかりと捉え、より楽しく居心地のよい児童館を目指して管理運営を行っていきたいと思います。

##### ②つくって遊ぼう

毎月第2週水・木・金曜日に親子一緒に工作を楽しむ行事として『つくって遊ぼう』を行いました。子どもの月齢に合わせた季節の工作や、手作りおもちゃなど親子で楽しく工作できるように工夫をしてきました。この行事を楽しみに毎回参加してくれる親子もいます。

##### ③ほっとティータイム

毎月第4水曜日の午前中、『ちびっこ広場』の後に保護者・乳幼児向けの飲み物を提供する『ほっとティータイム』を行っています。5年目を迎え、イベントが浸透してきており、『ほっとティータイム』を楽しみに来館する保護者も増えてきています。味方地区親子サークル『りとるくらぶ』のメンバーも『ほっとティータイム』の日が活動日にな

っていてたくさん参加しています。飲み物があることで保護者同士が交流しやすく、保護者の友だち作りの場になっています。日頃育児に追われている保護者同士「ほっ」とひと息ついて、育児ストレスを発散できる場所になればと企画した効果が表れてきていると感じます。

#### ④ママのためのリフレッシュタイム

平成24年度から、子育てを頑張っている母親（祖母）にリフレッシュしてほしいと思い始めた事業です。昨年度と同様に年に5回、保護者の方が楽しめてリフレッシュできるものを企画しました。保護者の方にアンケートをとったところ、「リラックスしたい」、「マッサージをしてもらいたい」、「ヨガがしたい」などの回答がありました。そこで疲労回復・リラックスするために『足つぼマッサージ』を3回行いました。また、肩こり腰痛に悩んでいる方のためにセルフメンテナンスの筋膜マッサージ『骨盤ビューティー』を行いました。短い時間ですが、参加者はとても喜んでいました。また、粘土作家の先生を講師に招き、クリスマスのオーナメント作りを行いました。粘土なので子どもと一緒に作ることができ、「子どもと一緒に楽しめた」と、とても好評でした。心と体をリフレッシュして、毎日の子育てを楽しめるよう今後も企画したいと考えています。次年度も年に5回開催する予定です。

#### ⑤しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった「子育てオウエンジャー☆みなみ」が中心となり、0・1・2歳の子どもの母親対象に支援を行っています。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽におしゃべりしたり、育児の悩みを相談し合うのが目的です。話しやすい環境づくりをするためにハンドトリートメントやお茶、お菓子も用意し、予約なしで気軽に遊びに来れるようにしています。しゃべろっとでは、その他にも『ピアノコンサート』を行い、とても好評でした。また5回目のしゃべろっとでは、オウエンジャーが保護者に対し行ったハンドトリートメントを保護者同士で行いました。これまで関わったことのない保護者同士が話をするきっかけになり、とても好評でした。『子育てオウエンジャー☆みなみ』のメンバーは、地域の主任児童員の方が担っています。味方地区には、味方児童館の存在を知らない方や、知っていてもなかなか児童館へ一歩踏み出せない方がいらっしゃるようです。そこで、地域の方と協力し、保護者が孤立しない、孤立させないように、保護者向けのケアを今後も続けていきたいと思えます。次年度も年に6回行う予定です。

#### ⑥BP講座

2～5か月の第1子とその母親を対象とした、初めての育児の学び、親子の絆作り、仲間作りを目的とした4回コースの講座です。今年度新たに味方児童館でも実施しました。13組の親子が参加し、育児の悩みや喜びを話し合い、学び合って知識を深めました。1回目は、初めて乳児と外に出たという母親も多く、表情も硬く緊張していましたが、回を重ねるごとに緊張がほぐれていき、他の母親の話に耳を傾けたり、積極的に自分の意見や気づきを話し合うことができました。子ども達の月齢が皆近いという事で共感することが多く、母親同士の関係も深まりました。講座が終了した現在でも、『BP講座』の参加者達は月1回のペースで集まり、子育て支援施設などを利用して交流を深めてい

ます。

#### ⑦保育園児、幼稚園児向けイベントの充実

『つくって遊ぼう』、『まつり』の他に、保育園児、幼稚園児のイベントとして、『GWお楽しみ会』や『人形劇』、『春休みお楽しみ会』を幼児が楽しんでもらえる内容にしました。また、昨年度に引き続き、地域の敬老会で幼児親子による出し物を披露し、多世代交流を行いました。地域の方にとっても好評だったので、次年度も継続して行いたいと考えています。

### (2) 来期の課題

#### ①新たな乳幼児親子の開拓、リピーターを増やす

今年度は乳幼児利用者数が順調に増加しました。日々利用者からの要望やアンケートなどからニーズを探り、対応してきた結果だと思えます。次年度は地域の方だけでなく、児童館の存在を幅広く知ってもらうために、PR活動を広げていきたいと思っています。また、居心地がよく、足を運びたくなる児童館を目指し、利用者からの意見を取り入れて、さらに充実した行事の企画をしていきたいと思っています。

#### ②子育て支援事業・講座の充実

今年度好評だった『BP講座』の継続と共に、悩みやストレスを軽減、解消できるような講座や、食育をテーマにした体験活動など、様々な行事を企画していきたいです。

講座・行事を通じて、子育ての不安を少しでも取り除き、前向きに子育てをしていけるような支援に繋がっていききたいと思っています。児童館に遊びに来る保護者の中には、単独で遊びにくる親子が見受けられます。孤立して悩むひとりぼっちの親を減らす、そして悩みを抱えている方には区役所や児童相談所などと連携しながら、その方にあった一番の対応を一緒に考えていきたいと思っています。また、安心できる関係をしっかりと構築していきたいです。

## 2. 小学生事業

### (1) 総括

今年度は1、6年生が多く来館してくれた年であったと感じています。理由としては、1年生はみんなで体を動かして遊ぶことが好きで、まだ体もそれほど大きくないので、児童館が遊ぶのにちょうど良い広さなようです。6年生は児童館で、思春期の悩みや日々のストレスなどを職員に話しに来るといった、交流を目当てに来館する子が多くありました。

今年度の小学生向け行事は、毎週火曜日に行っている『なかよし広場』を軸に、『つくって遊ぼう』などの工作行事と月に一回程度『ドッジボール大会』や『オセロ大会』などの行事を行っています。

初年度から掲げてきた、『子どもたちと一緒に作る児童館』ですが、昨年度よりもさらに子ども達が主体的に関わっている姿が見られ、子ども達と一緒に作る児童館になりつつあります。『ハロウィンパーティー』は5回目を迎え、老人デイサービスセンター味方へ行き、わらべうたや手話ソングなどの出し物を発表するなど、利用者の方と多世代交流をしてきました。特に『ハロウィンパーティー』は、毎年参加してきた子どもた

ちに「自ら行う」という気持ちが芽生えてきていると感じます。出し物を発表するために、自主練習や全体練習を自ら積極的に行っていました。自分たちで話す言葉を考え、発表していました。また、『きもだめし』は、児童館クラブの子ども達が担当しました。夏休みの間に準備を進め、当日も全員で力を合わせ、会場作り、ルール説明、案内、おばけ役など全てクラブの子ども達がやり遂げました。今後も子ども達の気持ちに寄り添いながら、子ども達と一緒に楽しい児童館を作りあげていきたいと思ひます。また、地域に根差した児童館を築くために、地域との関係を大切にしていきたいと思ひます。運営協議会には、味方地区コミュニティ協議会をはじめとする地域の有識者の方たちからも児童館運営に携わっていただき、『なつまつり』、『ふゆまつり』といった大きな行事で活動をサポートしていただきました。

次年度も全ての子どもたちが、健やかに成長できるように全力でサポートしていきたいと思ひます。

## (2) 来期の課題

### ①様々な子どもたちに児童館に足を運んでもらう

今年度は1、6年生が多く来館してくれましたが、一方でほとんど児童館に遊びに来ない学年もありました。現在常連となっている子ども達に、今後も継続して「楽しい」と思ってもらえる運営を維持していくこととともに、まだ児童館に遊びに来たことのない子、なかなか来館しない子ども達に、いかにして児童館に足を運んでもらうかが来期の課題と感じます。そのためには、ますます地域の方々や学校といった機関と連携し、児童館のPRの場を設けさせてもらい、周知を徹底していくことが重要と感じます。また子ども会議など、子ども達の意見を取り入れながら行事を行っていききたいと思ひます。

## 3. 中・高生事業

### (1) 総括

今年度も『クリスマス会』に味方中学校の吹奏楽部に来てもらい演奏会を開きました。今年で5回目を迎え、幼児、小学生にとっては間近で素晴らしい演奏にふれることができ、また、中学生にとっては人前で演奏する練習機会となりお互いに良い体験となりました。今年度も昨年度に引き続き、子ども達の夏休みなどの長期休暇に中高生イベントの『中高生夕涼み会』を行いました。普段から来館していた中学生が主体となり、ポスター作成や夕涼み会の内容を考えました。射的、型抜き、ヨーヨーつり、かき氷、腕相撲大会などのイベントを企画しました。小人数の参加でしたが子ども達は喜んでいました。次年度も子ども達と企画していきたいと思ひます。今年度は『まつり』、『クリスマス会』の他に『イラストコンテスト』作品出品、『オセロ大会』の参加がありました。特に『ふゆまつり』では、お客さんとして参加するだけでなく、ブースのボランティアとしても協力してもらい、中学生が大活躍してくれました。また、長期休みには時間に余裕のある多くの中学生が遊びに来館し、小学生達と一緒に遊ぶ姿が度々見られました。今年さらには中学生の児童館の活用が広がったように思ひます。来館してくれた中高生とコミュニケーションをとって交流を深め、児童館が子ども達にとっての居場所の1つになるように情報を発信し、周知していきたいと思ひます。

## (2) 来期の課題

### ① 中高生にとって身近な児童館をつくる

中高生の来館する機会は少しずつ増えました。児童館が中高生に対して何ができるのかを追及すると同時に、中高生が求める児童館の形を把握していきたいと考えています。また、中学校の地域コーディネーター「おむすびクラブ」との連携を更に密にし、様々な行事のボランティアを積極的に募集していきたいです。また中高生対象のイベントの開催を増やしていきたいと思っています。児童館に携わるきっかけを作り、少しでも児童館に興味を持ってもらい、気楽な気持ちで来館してもらえればと考えています。

## 3. 地域との連携事業

### ① 味方地区公民館との連携事業

- ・ 人形劇（11月）
- ・ 育児講座（7月）
- ・ 科学実験（9月）
- ・ 食育（6月）

### ② 味方小学校、おむすびクラブとの連携事業

- ・ 校外学習
- ・ いきいき子ども塾
- ・ 「自学おうえん隊」

### ③ 味方中学校との連携

- ・ 吹奏楽部演奏会（12月）
- ・ ふゆまつり子どもボランティア（2月）

### ④ ボランティアとの連携事業

- ・ 5周年なつまつり
- ・ ちびっこクリスマス会
- ・ ちびっこハロウィン
- ・ ふゆまつり
- ・ 乳幼児行事・小学生クラブ（食育推進委員など）
- ・ おはなし夢広場
- ・ 瓢箪、花植えなどのボランティアなど